

令和5年度 大島地区後期高等学校等生徒指導連絡協議会 実践発表

鹿児島県立奄美高等学校定時制
生徒指導部 本門 輝顕

主題：(1) 特別活動を中心とした開発的・予防的な生徒指導について

ア 社会性の育成など人間としての在り方や生き方の探究についての実践例

1 奄美高校定時制の紹介

- ① 本校は、「自主創造の精神」「友愛奉仕の態度」「不況不屈の根性」を校訓とする離島唯一の定時制高校である。創立72年目であり、卒業生は2,995人である。
- ② 定時制課程は、4年修業となるが、開陽高校通信制の授業を受講する(希望者)ことで、3年間で卒業する制度(定通併修)がある。
- ③ 中学卒業後の15歳から74歳までの生徒が在籍しており、社会人や学び直しのために入学する生徒もいることから、基本的には校則を設けていない。そのため、社会人としてのマナーやモラルの指導を中心に生徒指導をしている。

2 不登校生徒への支援の現状と課題

人間関係の悩みなどの諸事情から小学校や中学校に登校できず、本校へ入学した生徒も多く在籍することから長期欠席の傾向がある生徒に対する支援が重要となっている。

具体的には、特別支援推進委員会を設け、定期的及び必要に応じて会議を開き対応している。構成員は、教頭・養護教諭・各部主任・特別支援コーディネーターである。主に二つの機能を持ち、一つは生徒の現状把握及び共有すべき支援策の検討、身体的なことや家庭状況などを把握共有することである。もうひとつは、不登校生徒の支援及びその認定に関する審議で、2分の1規定や別室登校について対応を審議するものとなっている。学期の初めと終わりに教育相談や個人面談を行い、その結果や生徒・保護者の状況を担任が判断し、各学期2回ずつ会を開いている。

遅刻や欠席が多くなった生徒について情報を共有し、学校教育カウンセリングなど支援を続けているが、人間関係に困難を感じ、自信をなくした生徒に登校刺激を与えることに難しさを感じている。

	生徒関係	職員関係
4月	・教育相談	
5月		・第1回特別支援教育委員会
6月	・生活実態調査・いじめアンケート	
7月	・個人面談・学校のしいと	・第2回特別支援教育委員会
8月		
9月	・教育相談・スマホ利用実態調査	
10月		・第3回特別支援教育委員会
11月	・性教育統一LHR	
12月	・個人面談・学校のしいと	・第4回特別支援教育委員会
1月	・教育相談・情報モラル教室	・第5回特別支援教育委員会
2月	・学校のしいと	・第6回特別支援教育委員会
3月	・個人面談	

R5 特別支援年間計画(発表スライドより)

3 「哲学対話」の実施とその効果

本校生徒の特徴として、対人コミュニケーションが苦手なことや自分に自信がもてないことが挙げられる。小学校から不登校傾向の生徒もおり、社会性を育むような対人コミュニケーションの経験が少なく、友人とのトラブルを抱えやすいと考えられる。そこで、令和2年度より特別活動の時間を用いて、「哲学対話」を年2回実施し、生徒の成長を目指している。

哲学対話では、哲学的な思考を深めることができるようなテーマに取り組み、他人や自分自身への問いかけや「自分で考える」、「相手に自分の考えを伝える」、「相手の意見を聞く」といった経験をすることで、互いを尊重し、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力を育むことを目的としている。

テーマについては、深く考えるような内容だが、答えに窮するような難しいテーマにならないよう毎回違うテーマを設定（生徒が選択する）、グループは学年（年齢）が均等に分布するように3グループ（8人程度）になるよう構成している。ルールは毎回グループの代表者（ファシリテーター）が声に出して確認するようにしている。

・ルール

- ※ 「無の時間があってもいい」
- ※ ボール（コミュニティボール）を持っている人しか話せない
- ① 何を発言してもいい。
- ② 他者の発言に対して否定的な態度をとらない。
- ③ 発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
- ④ お互いに問いかけるようにする。
- ⑤ 知識ではなく、自分の経験に即して話す。
- ⑥ 話がまとまらなくていい
- ⑦ 意見が変わってもいい。
- ⑧ わからなくなってもいい。
- ※ 状況により教員もメンバーに加える

テーマ（R3～R4年度）

R3年度

- ・なぜ人は学ぶのか

R4年度

- ・人生で大事なもの（こと）とは
- ・大人とは何か
- ・なぜ人は働くのか

哲学対話を実施した結果、感想には「異なる世代の考え方を知ることができたり、他人の考えを聞いて、自分の考え方を深めたりという経験ができた」という内容があり、感想に書かれた以外にも、「初めは発言することが億劫だったが、他の人の発言する様子を見て自分の意見を言ってみようという気持ちになり、最後は積極的になれた」というものがあった。次頁には、感想文の例を挙げる。

・哲学対話の感想

5 感想文

1年 番氏名

●本日の哲学対話テーマ「うそはついても良いのか」について参加した感想を書いてください。

結果的にうそは良いという意見が多かった。でもか、そのうそは自分を守るためだったり、人を成長させるために使う事があるように思う。人間の心はうそで成る。Nさんの話からよく理解できて、最後に書いたうそをつく理由がうそかとか、うそは、あ、たしかに」と思いました。自分を、みんなもうそはダメだとわかっているけれど、うそをつかうのが人間らしいです。
(時と場合による。)

感想文①

70代の生徒との対話が刺激となっている

5 感想文

2年 番氏名

●本日の哲学対話テーマ「うそはついても良いのか」について参加した感想を書いてください。

自分はほとんど発言しなかったけど、舌を聞いて、口では場合によるけど、やっぱり自分がバカでジョークを言っているのに言っているのを言うみたいなのうそはいいけど人をだますようなうそはだめだなと思いました。たまた、自分もうそをつかずにいこうかなと思いました。

感想文②

直接発言がなくても、考えを深める行動が取れている

5 感想文 (本日の哲学対話テーマ「人はなぜ学ぶのか」に参加した感想を書いてください。

1年 番氏名

おはずと聞いていたけど、みんなの話も経験も全て、こういうことがあったんだとか、こういう人はたまたまとか、こういう受け止め方があるんだなって学ばせて。高校生になって、1歩だけ社会に踏みこんでみると、毎日が知らないことだらけで日々学んでいるんだなって、改めて1日1日を大切にしようと思いました。

感想文③

同じ生徒の1年次(上)と3年次(下)の感想。「聞く」から、考えて「発言」と行動が変わっている。



5 感想文

3年 番氏名

●本日の哲学対話テーマ「うそはついても良いのか」について参加した感想を書いてください。

今回の哲学対話でやはり社会経験の多い方々のお話は7xに感じるなあと思いました。もう少し経験を重ねて言葉を沢山つなげられるように頑張りたいと思います。自分の発言に責任を持って、人を不快にさせないようにうそはつかず、これから考えてから発言できるようになりたいです!

・まとめ

哲学対話により、生徒が自主的に発言する場を設けることで、自分の意見を積極的に伝えようとする主体性や意欲が向上し、さらに他の学年や異年齢との対話を通して対人コミュニケーションの経験を得ることで視野が広がり、互いを理解しようとする社会性を向上させる効果があると考えられる。この経験を複数回重ねることで生徒が自分に自信をもち、学校生活に対して積極的になれることが期待される。